

	項目	状態
身体	麻痺	左上下肢
	関節の動き	左肩、肘拘縮あり
	褥瘡の有無	痩せてきており、皮膚は乾燥傾向、背部や臀部に発赤が出やすい。
	視力	細かい字は見えにくく、眼鏡を使用 左半側空間無視
	聴力	左は聞こえにくい。
動作	寝返り	声かけによる協力動作あり。
	起き上がり	全介助 協力動作あり。
	立ち上がり	全介助 協力動作あり 左上下肢には力が入りにくい。
	座位保持	背もたれがあればできるが、左に傾きやすい。
	立位保持	できない。
	歩行	できない。
	移乗	全介助
移動	車椅子で全介助	
食事	食事行為	右手でスプーンを使用すればできる。
	水分の状況	水分にむせることがあり、トロミをつけている。
	嚥下の状況	嚥下障害があるため、ブレンダー食を提供している。口腔内左側に食べ物が残りやすい。
排泄	排泄行為	リハビリパンツ・パット使用・トイレ
	尿	尿意があるので体調の良い時にはトイレで排泄 夜間はたまたま失禁ありオムツを使用
	便	便意あり、便秘傾向のため頓服で下剤使用 (体調による)
整容	洗面行為	ホットタオルを渡せば、右手で拭けるが仕上げが必要。
	体を洗う行為	入浴は機械浴で、その日の心身状況により全介助で行う。
	口腔ケア	痩せてきているため義歯が合わず、使用していない。 残存歯は職員が歯ブラシで口腔ケアを行っている。(仕上げが必要)
	洗髪	全介助
	整髪	ブラシを渡せば自分でできる。
	爪切り	全介助
	衣類着脱	協力動作はあるもののほぼ介助
コミュニケーション	日常の意志決定	日常の意思決定能力は保たれている。 自分で判断できない事は長男に委ねている。
	指示への反応	意欲が低下しており、反応が鈍い。
	記憶・理解	年相応の物忘れはあるが、日常生活に支障はない。
	意志の伝達	言葉が出にくくなっているが、意志の伝達はできる。感情失禁あり。

IADL の情報 1-2 岡本 静江 様 (仮名)

	項 目	状 態
調 理	献 立	できない
	切 る	できない
	炒める・煮る	できない
	味 付 け	できない
	盛 り 付 け	できない
洗 濯	洗 う	できない
	干 す	できない
	た た む	できない
	片 付 け る	できない
買 い 物	品 物 選 び	できない
	支 払 い	できない
	購 入 品 の 片 づ け	できない
掃 除	掃 く	できない
	拭 く	できない
	整 理 整 頓	できない
縫 物 補 修	糸 通 し	できない
	縫 う	できない
	修 復	できない
	針 の 管 理	できない
金 銭 管 理	日 常 の 金 銭 管 理	できない
	通 帳 管 理	できない
	支 払 い	できない
電 話	掛 け る	付き添い、見守りが必要。家族、知人のみできる。
	出 る	付き添い、見守りが必要。取り次ぎをすればできる。
通 院	受 診	付き添いが必要
	処 方 箋	全介助

事例の概要

①基本情報

氏名	岡本 静江 様 (仮名)
生年月日	昭和13年7月7日
性別	女性
要介護度	要介護4
障害高齢者自立度	B2
認知症高齢者自立度	I

②生活状況

岡本静江さん(85歳・女性)は、他県で夫と二人暮らしをしていましたが、70歳の時に夫が他界したことをきっかけに、静岡に住む長男家族と同じマンションに引っ越しました。長男夫婦の支援や長女・次男(他県)の協力を得ながら、趣味の料理や音楽等を楽しみ、俳句を新聞に投稿することもありました。また、家族と季節ごとに旅行にも出かけていました。

80歳の時に、脳血栓のため入院、左不全麻痺が残りましたが、静江さんは「右が助かったから俳句が続けられる」と前向きな発言をされていました。しかし、翌年、脳梗塞を発症し再度入院。左半身麻痺は悪化し、車椅子が必要となり、日常生活全般に介護が必要となったため、特別養護老人ホームに入所しました。

入所してからも体調が良い時には、家族と外出したり、施設内の俳句の会に参加したり、気の合う友達と会話を楽しみながら、穏やかに生活していました。

③健康状態等

高血圧症。脳血栓、脳梗塞の後遺症により左半身麻痺。言葉が出にくく、嚥下障害、左半側空間無視、感情失禁がある。12月に誤嚥性肺炎と脱水により入院。1月に退院したが、食事・水分摂取量が低下している。腎機能の低下もあり、両下腿部に浮腫がみられる。
身長：150 cm 体重：33 kg BMI：14.7

④趣味・好む活動

料理・音楽鑑賞・俳句・旅行

⑤家族構成

同市内に長男夫婦と孫二人、東京在住の次男(独身)、神奈川在住の長女夫婦と孫1人

⑥使用福祉用具

ベッド(体圧分散マットレス使用)・車椅子

⑦サービス利用状況

特別養護老人ホーム入居中

介護保険認定期間 令和6年2月1日～令和7年1月31日

令和6年2月に区分変更している。

⑧最近の様子

今月に入り更に食欲が低下し、意欲も低下、日中もベッドで休まれています。医師は食事の低下は、年齢的なことも考えられ、経口摂取ができなくなった時には、胃瘻栄養法や中心静脈栄養法など方法がある事を説明しました。

本人は、「主人が亡くなってから子供たちに世話になりながら生きてきましたが、これ以上子供たちに迷惑をかけたくはありません。痛い思いや苦しいことはしたくないのですが、気分のいい日には、俳句の会に顔を出したいです」と望まれています。長男は、次男、長女と相談し、本人が望む様に延命治療はせず無理なく自然に過ごさせてあげたいという意向があり、施設での看取りを希望されています。

課題

課題1 看取り期の「食事支援」 ブース1

午後になり、孫が好物のプリンを持参し面会にきました。様子をみに訪室するとお孫さんから「私がおばあちゃんにプリンを食べさせてあげたいのですが、どうすればいいですか？」と聞かれました。

課題2 看取り期の「着脱支援」 ブース2

静江さんから「俳句の会の様子を見に行きたい」と希望があり、見学することになりました。見学前に水分補給を行いました。服を汚してしまいました。俳句の会を見に行けるよう支援をして下さい。

課題3 看取り期の「体位変換の支援」 ブース3

静江さんからコールがあり、訪室するとベッドに横になり、「腰が痛い」と顔をしかめています。痛みに配慮し、安楽な姿勢になるように支援してください。